

# れんさい 監査の四季

第24回  
鯖江市代表監査委員  
川 中 清 司

## これからの眼鏡産地(1) 生産減と輸入増の構造変化

鯖江の眼鏡産地は大きな変換期を迎えています。生産高が減って輸出が減り、逆に輸入が増えています。

この10年間で眼鏡枠の生産高は1千億円台から800億円となり、46%の事業者の売上げが半分に落ち込みました。

輸出高は333億円で四年前より約3割減りました。アメリカは163億円の最大の市場ですが、ブランドと付加価値品はイタリアに、量産品は価格面で中国や韓国に押され競争が続いています。

輸入高は356億円で4年間で36%増えました。そのうち中国からは154億



世界最大の眼鏡見本市「ミド展」(イタリア)ですすむ商談風景

円が増えて、総輸入の42%を占め、EUからの輸入も143億円に増えていきます。

中国の眼鏡産業は国や地方政府が後押ししており、人件費が安いだけでなくチタンの加工技術や機械化も進み、製品の質も向上して日本製品との格差が縮まっています。

製造だけでなく消費市場としても次第に成長しつつあります。

### 大型店のシェアが5割超す

日本の眼鏡小売店は約2万千店を数え、小売総額は約1兆664億円で、年率で約4%の伸びを示しています。

消費層は45才以上が46%を占め、今後も高齢人口の増加や、ファッションの需要などで拡大が見込まれます。

小売店のなかで従業者2人以下の小規模店の数は、全体の約52%を占めています。この10年間で千店以上も減っており、次第に大型店の割合が増えています。

小売トップ20社の売上高の割合は、全小売総額5割を超えています。チェーン店などによる寡占化が進むなかで、メーカーから小売店に至るまでの流通形態に短縮化などの変化がみられ、産地卸にも影響を与えてい